

Rey Camoi

スペイン便り

私の村の人達

鴨居 玲

△二紀会会員▽



皆様有り難う

今年の一月早々「心が痛くなるような悲しい人形」を描き続ける岩島君と、ルーヴル美術館に出掛けた時のことである。

館内を歩いていると、確か何処かで、一度会ったことのあるような、日本人の画家らしい人と出会った。「誰だったかなあ」と考えているうちに、ふと視線が会って「やあ、今年もよろしくお願ひいたします」と思わず口走ってしまったが、相手はそのまま「ああ……」と頷きながら、私の傍を通り過ぎて行ってしまった。岩島君が「先輩、今の方は、誰れか偉い方ですか……?」

「いや、それが誰だったか、今考えているところ、ケベケベケベ」

「何です、そのケベケベケベというのは。」

「これはポルトガル語で、エートエートと言って、考える時に使用する言葉です。エート、アリヤ待つて下さい

よ。確かあの人は、私の会の一般出品者。あの審査員である私に向って「ああ」と言って反り返るとは……」
「しかし、先輩の方から頭を下げたんですぜえ……、マア、貫禄負けでんなあ——。それに着ている物もあの人の方が上物でしたぜ、エヘヘ……。」

「ウス、許せぬ!!」

早々にルーヴルを出てカフェーに入り、何故に私が人並に尊敬されないかについての徹底的な研究会となった。

「あのねー岩島君、そのー、なんですけれどもね、明らかに私よりくだらぬと思われる絵描きでさえ、展覧会シリーズともなれば、自分で酒を買う必要がないとさえ言われる位に、出品者からの贈物があるそうです。しかるにです、私はですね、私は会の審査員、それも並とは違って□印付きの審査員でありますよ、貴君。応募用紙に

記載されているのを知っているでしょ。何、見たことない、まあ、今度よく見て御覧。それなのに贈物どころか「今年もよろしくお願いします」等と、何故私が言わねばならぬ、許せぬです!!」

「そりゃ、先輩は□印は□印かも知れんけど、どうもその□印が……。」

「貴君、私の空耳かも知れませんが、キ印とか、あるいはそのような気持を籠めて、さつきから発音してはいませんか……?」

「そんなことありませんとも……。」

「その□印がですね、何故人並に尊敬されないかという問題を、分析してみますと、結論として、あの□印に贈物をして仕方がない。バカバカしい。無駄である。頼りない、おだてりや一発、住所不定である。スキヤンダルが多い。とまあこのあたりのところでしょうか、更に申せば……。」

「まあええです、他の人のことはこの際諦めるとしまして、貴君はどうなのですかね、学生時代から吾が家に出入りしだしてより、既に二十数年にもなるというのに、盆、暮れの挨拶どころか、貴君は反対に……。」

「いかんいかん、そのような愚痴は言うものじゃない、ちゃんとわかっています、わかってますとも、物じやないよ心だよ!! (何か流行歌で聞いたような気がするが) 心ですよ、心、私はね——先輩の壮絶とも言えるような生き方に、初めて、真の絵描きというのを知ったんですよ……。」

「いやいやとてもとても……。」

「自分の人生観を揺振られるようなショックを先輩と出会ったことによって、私は受けたのですよ」

「……どうだね、君、少々、持ち合わせがありますが、絵の具代持っていきませんか……。」

「いや結構です。何時もお世話にばかりなっておりますからして……。」

「なにを言いなさる、構いません構いません持つて行きなさい。」

「私はいつも先輩から、お世話にばかりなつて、なんのお返しも出来ないのが心苦しい、どうしたら、良いのでしょうか……?」

「……それは君、君がですね、良い仕事をしてですね、その何です、その又次から来る若い人の世話をしてあげれば良いじゃありませんか……。」

「それではお言葉に甘えまして、遠慮なく……。」と言って彼は、お相撲さんが賞金を受け取るような手付きをしながら、お金を懐に入れた。

すがすがしい気持ちになつて、カフェーを出るには出たが、またしても「次の時に必ず返してよ」と、言う機会を失ってしまったのが、なんとなく残念。

やはりあの人が分析した通りに、私は貫禄がなくて、オッチョコチョイなのかかも知れぬ、まあ、仕方がない。オッチョコチョイといえは、偶然のことから住み付いた、スペインの小さな村も、私に輪をかけたようなオッチョコチョイで、そして陽気で頑固な愛すべき人達の住んでいる所であつた。

マドリッドから南に二百キロ位、例のドン・キホーテの舞台になつた、ラ・マンチャ地方である。

その村に、私と非常に気の合つた、マノロ君という野菜を作つて、それを奥さんが市場で売つて、生活している若い夫婦がいた。

ある時、フト思いついて、日本から大根の種を取り寄せて、作らせてみたところ、土が固いので少々、いびつにはなつたが、見事な大根が出来上つた。

喜んだマノロ君、「俺ワ、スペインデ、初メテノ事ヲ成シトゲタ男デアル!!」と飛び上つたのだが、保守的な村のこと、「こんな化け物のようで、妙にヒリヒリするものが喰べられるか……。」とお客さんの評判は散々「アア、俺は駄目な男ダ……。」と、今度は地べたにへたり込んで泣き出すので、これは大変なことになつたと、畑一面

の大根を全部車に積み込んで、それから連日、マドリー
 ドの友人、日本人レストランに大根の配達、「これは懐
 しい久しぶりの日本の味」と大好評だったが、当方は車
 も体も大根も臭くて、たまったものではなかった。ある
 レストランにいたっては「この大根、以後、続けてくれ
 るならば、契約したいが……」等と言ってくる始末。
 その大根も今ではスペインのカブラと混血したものか
 形だけは、日本の大根だが、あのヒリヒリがなくなっ
 て妙な物になっていた。結構、村では評判になり、その後
 は売れている様子、大自然の妙というか、面白いもので
 あった。

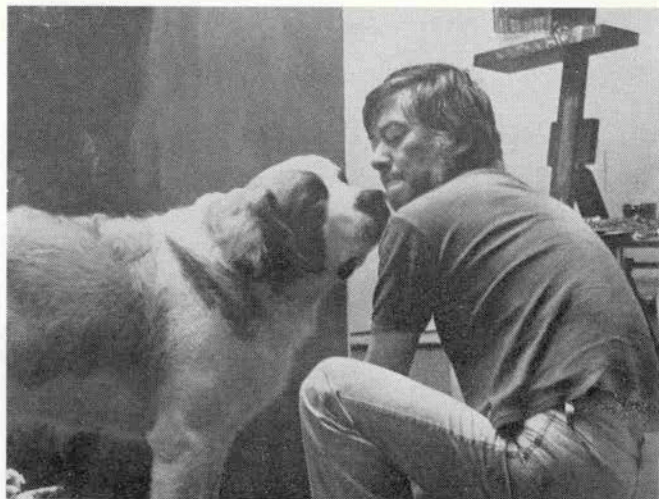
大根と人間を一緒にしてはいけないが、南米や、アメ
 リカの二世、三世も、やはり、このような変化をなして
 いるようである。

この大根騒ぎの時に、ふと、「日本には種無し西瓜と
 いうものがある」とつい余計なことを口走ってしまった
 ばかりに、またもや大変なことになる、ただでさえ、け
 たったましいスペイン語が、更に大きくなり、その西瓜
 について議論していた村人達が、

「トコロデ、カモキ、ソノ、種無し西瓜ノ種ト言ウノワ
 ドノヨウナ物カ……?」。改まって尋ねられると私もそ
 れがどのような物が自信がなくなり、これはいかぬと、



村の楽隊（ドラム）



アトリエで制作中愛犬データーと戯れる筆者

「日本デワ、コノヨウナ時、ドウスルノカ……」と言うので、

「私は無宗教であるから親父の習慣に従ってただ酒を飲む」と答えたところ、徹夜で数人がそれとも、たえず私の顔を注意しながら、村のBARのはしごを付き合っで呉れ、教会の前では、ヒゲ面の男達が、大きな声で、「サント・マリア様」と母の為に祈りを捧げてくれた。

「マノロよ、私は、私の今の気持ちを電報で日本に知らせたいのだが……」

早速、皆で考えて呉れた文面は、

“PARA MI MADRE GRACIAS ADIOS”

即ち「私の母よ、有難う、さようなら。」

村を去る日、駅まで多くの村人が送って呉れた。マノロ君が、

「カモヤ、コノママ村デ、共ニ歳ヲトル事ワデキナイノカ……」と泣きながらマドリッドまで急行の切符を買って呉れた。それを、これも又泣きながら、なんとなく見ていたマノロ君の奥さんが、突然駅員にむかって、とても早い早口で嘔鳴りはじめた。

「何故、此ノ汽車ワ、マドリッドマデ少ナイ時間ナノニ同ジク、マドリッドマデノ他ノ長イ時間ノ汽車ヨリ値段が高イノカ……」

あまりの大声に、何事かと出て来た駅長さんも「何故短イ時間ナノニ、長イ時間ノ汽車ヨリ、高イノカ、オカシデワナイカ!!」と嘔鳴られて、「ヒョットスルト、俺達ワ今迄、トンデモ無イ計算違イヲシテイタノデワナイカ……」と一瞬ボカンとなって「ソレワ——」と考え込んでしまったものである。

この村に住んでいる人達、貧しくて、そして学問もなければ、ホーク、ナイフの使い方も知らないけれども、私達がすでに忘れてしまった、ある大切なものを、確かに、それもすっかりと持っているような気がする。やはり岩島君の言った通りに人生「物じゃないよ、心だよ」かも知れない。

「絵」(白駒画廊発行)より

早速、町内の冠婚葬祭、その他のもめ事、一切引き受けます、という、神戸のM画廊のSさんに手紙を書いた。折り返し返事が来て、「家族の者とも相談したが、どのような物かと言われてみれば、誰れもなんとなく判ったようで判らぬ、然し何分にもことが国際的な信用にかかわる問題でありますからして、只今、京都の大きな種間屋さんに問い合わせ中であります……云々。」

どうもこの人も騒ぎを更に大きくする傾向があるようでもまあ交配によるものであろうという事で一件落着。

この村に住んで居る時に、私は、「母死す」の電報を受け取った。村人が続々と弔意を表しに訪れて来、列に並んで一人づつ、門の内側に立っている私にもうこれ以上の悲しみは表現出来ないとかかりに脱帽して、私に握手をして行く。中には倒れんばかりの握手もあった。そしてマノロ君が、

レディのためのハイセンスな小部屋……

パブ的なお値段でステキなムード。

音楽によってリズムカルな動き。

オーディオのこった店です。

まるで女王さまになったような気分。

いやなこと全部……わすれさせてくれる。

もう一度必ず来てみたい。

そんな気持ちにさせてくれる店。



毎夜、生演奏が入ります。
夜8時から営業。

MEMBER'S LADIES CLUB

女の日時計

神戸市生田区下山手2丁目29番地5(アマツビル4階)
神戸レディスサウナ西隣 TEL (078) 332-3130 (代)

□第1回 神戸文学賞受賞作品

連載 2

島之内ブルース

田 靡 新

え／中西 勝



ボクはオナニーより夢精の方が好きだ。どちらとも短い時間の筈だ。闇の中にめくるめく野放図なひろがり。思いもよらぬ衝撃の連続。夢精は抑えられた潜在意識をえぐりだして噴出する。それが好みにあっている。

自慢じゃないけど、夜眠る前の頭脳の冴え方は凄いだ。それに比べて朝の目覚めが、いっそうボクを悲しませる。受験勉強が、ボクを朝嫌いにしてしまったともいえる。夜明けに希望はない。勃起だけが息づいているのに、いつくしむ気にならない。ボクは急いで電車通りに駆けだす。高架駅のホームから見える一本の大樹に、けさも挨拶をかわす。朝陽に向って、緑の光線をふりまいている。太い幹からせりあげる葉の群が、まるでざざ波だ。低い家並みに反射するひかりがまぶしい。ゆったりと深呼吸をする。動悸が伝ってくる。ボクはいつまで眺めていてもあきない。快い気分だ。さっぱりと何もかも忘れられる。わずかな風にも葉さきは敏感にゆれ動く。風を大地から吸いあげ、一面にうす緑の葉っぱがひるがえる。ボクのもっとも好きな瞬間だ。あっさりした大男を眺める感じ。ボクは快い興奮に頬を染める。楠か。まだ名を知らぬ。名のない樹がまたいいと思う。あの大樹を眺めていると、この一年を受験だけにこだわらないぞという気になる。大地から脈みやくと続いてきた血筋。時間——いまようやく大人への道を歩みだしたボク自身との出逢い。人間の三代も四代分も生きてきた樹木。夢をみているような気分になる。この樹を眺めているとボクの親父や祖父の血筋を辿りたくなる。

親父の職業は塾業とでもいえる。昔といってもボクが小学校のころは、書道や絵を近くのガキどもを集めて習わせていた。ワケの解らない墨絵やえのぐ絵に子供たちの親がやめさせていった。趣味的な余裕が薄らぎ、世がまさに受験時代に推移したのと一致している。わずかにソロバン塾だけが残り、部屋を貸しているだけだ。いまは、むしろおふくろの方が近所のおかみさん相手に手芸

やお華、お茶の稽古事をやっているだけだ。

ボクは親父とおふくろの出逢いや恋愛に興味を持つがむしろその前に、つまり祖父母たちの方にずっと深みを感じる。この地が廓だったこともあるからだ。

先日、親父の本箱へ双眼鏡を探しに行ったとき、カセットテープを見つけた。狭い本箱は畳がしわむほど本が積み重ねてあるのだが、その奥にテープの箱が眼についた。親父が大切に保存しているところを見ると、何か貴重なもののようにだし、子供たちに聞かせたくない秘密めいたみだらな音の記録かも知れない。ボクは後の方の考えに襲われ、ラジオにテープをセットするまで指先がふるえていた。だが、何のことはない。この春から運動をはじめた『橋を庶民のものにする市民連合』の決起集会の挨拶なのだ。

最近、親父とは疎ましく口を利かないのに、ボクはこのテープを聞く気になった。

——この歳になって、このように私が市当局の都市計画そのものの行政にタテツクことは、非常に忍び難いものがあります。が、しかしであります。なぜに齢五〇余年を経た私をここまで追い込んだものは、いったい何でありましょう。行政側も、住民ひとりひとりの意見は、なかなか聞き入れてくれない。地元住民の総意が得られなければ、聞く耳を持ちません。幸いこの市民連合の設立と同時にようやく重い尻をあげてくれたものの、住民の意識とは、おおよそかけ離れたところでのデスクプランのみに拘わり、住民不在のまま計画を進捗するところは、昔もいまも変わっておりません。

変わったのはかけ声のスローガンだけです。町に緑と太陽を、老人をいたわる愛のある都市づくりと口あたりはさわやかですが、そのことを行政面に反映するには、まだ時間がかかりそうです。相変らず身分の保全と出世栄達を仕事だと心得ている役人どもが相手だということをキモに命じないと、おいそれとは発想の転換はしないであります。われわれもここで改めてふんどしを締め

直さねばなりません。

親父の喋っている間、出席者のざわめきがいったん治まる。ざわめきが治まると、クルマや電車の騒音が、親父の声を打ち消すときさもある。またしても人々のざわめきが戻ってくる。まるで潮騒だ。親父の話がここで中断されたとき、テープには「きり」と「女はふんどしがねえから股ぐらでも締めるか」と相の手が入る。どつと笑い声が噴出する。親父はかまっていられない。

——私はこの島之内で生まれ、育ち、おそらくここで土に返るでしょう。幸か不幸か、この地を愛しているともいえませんが、でき得るなら、空気のもっときれいな、もう少し人間らしく住める静かな環境に移り住みたい。しかし、いかにせん、そんな余分の資力がありません。そうなりますと、この地を元の環境に取り戻すしかありません。

こうした劣悪な環境も、ここ十年余りの間に誰もこんな状況になるとは知らなかった。市当局もおそらく予想をしていなかったでしょう。こうしてふりかえってみますと、われわれ大人たちが、全く無関心だったことが、今日の環境破壊をひろげてきたともいえます。いま私がそのことをどうこうといってもはじまりません。われわれ庶民は、やはり島之内で生活をつづけてゆくことには変わりはないのですが、ここでみなさんにも考えて頂きたいのです。われわれ老人は、もう余命いくばくもないので、この環境で我慢できるとしても、われわれの子供たちやそのまた生まれる子供たちの小さなちと健康を考えますと心が痛んでくるわけです。そこで、われわれはせめて次の世代の子供たちへ、少なくともこの島之内が故郷であると自信の持てる環境を守ってやらねばならない。遺産に足りるべきふるさとを守ってやるのが、あたりまえだと考える次第です。

こうしたきわめて常識的な発想は、出席のどちらさまにもご理解が得られるものと確信いたします。

「島さんはまだ若いけん、その上奥様も美しいけん、子

供はまだでけるよ」また相の手が入る。どうやら前と同じ相手だ。一ぱいひっかけて町内の常会みたいなつもりらしい。以前ほど人は笑わない。そればかりか「静かにしなよ」と女の声が後を追いつく。

——私はみなさんに訴えます。そして、これからも同じことをくりかえすしかないのですが、この島之内の特殊な実情を勘案していただき、もう、これ以上環境の悪くなることは、狭い道路たりともきつぱりとお断り申し上げたい。もう公共の福祉をちらつかせる役人どもを信じません。便利さも返上します。少しぐらい不便でも、ほんとにこの住民にとって橋がいのなら渡し舟でもよいと考えているのです。

埋立地の発電所増設もいりません。停電だって、実際に誰が困るかはっきりしているのです。暗闇だって、工場がストップすれば星空が顔をだすでしょう、静かな夜が戻ってくる筈です。

少し昂奮して極論を申しあげましたが、私はこんな方法でも武装できるのなら、また本来の人間らしい生活がとり戻せる方法を選んでもよいと考えています。

「ロウソクで、もういっぺんじょうやをやるか」

ボクには相の手が聞きとれなかった。再びテープを戻し聞き直す。「もういっぺん女郎屋をやるか」。ボクの胸がにぶく痛んだ。テープは單々と親父の声をつづけている。

——そして私は考えますのに、このような住民運動が、なぜ若い人たちに受け継がれないのかとただただ残念に思うひとりです。だが、最初から若い人の参加を望むのはムシがよすぎましよう。生活の基盤も違います。お務めも含め、管理された社会内での動きにくさは、なにも島之内の青年だけの問題じゃないでしょう。そして、もうひとつ、すでにこの島之内は昔の面影を失い、環境はいちじるしく損われています。その責任が、いま若い人から問われているともいえるでしょう。自然をいたわる心を失い、行政の一方的な押しつけに無関心だったその



責任は、いま負債としてわれわれが背負わされているのです。ですから過去に於てなんの行動もとリエなかった大人たちの悪しきマネをやめ、いまよりもよい方法を若い人も考えてもらいたい。これはお願いでございます。できれば、こんご時間をかけて若い人たちとも話しあえばご理解がえられるものと信じます。かなりの時間が必要でしょうとも、運動の持続は真に若い人の協力が必要であります。この運動は決してカッコのよいものではありません。しかしいろいろ試行錯誤をしてゆくから新たな運動体の中味を築きたいものと……

テープは、ここで大型トラックのエンジンの音に消されてしまっている。駅前の町内会館での集録だ。前のバス道をはさんで、通過する電車のレールの音、警笛。バス停を発車するジーゼルエンジンの爆音。排気ガスを思いのまま吐きつける黒煙が眼に浮かぶ。どんな音でも吸収する集録マイクは、街の暗騒音までキャッチしている。ここでも人間の言葉が消されている。銭のある奴もない奴にもこの騒音を聞かせてやりたい。ほんととは親父の話の聞いてもらいたいのだが。結局、この騒音が気にならない奴は、神様か死人なんだ。その上のクラスが、自分でクルマを持ち他人のことなど考えずに生きる奴。気にしてもどうせしやあないとあきらめの早い奴。その上のクラスは仕事、メンツ、出世欲、メシの喰い代のためなら、どんな我慢でもできる奴。こんな奴がいちばん多く、それでいて他人のやることにいちいちケチをつけたがる。親父は、どのクラスかな。諸悪の根源はクルマを含むスピード感だという。より速く、より高く、より楽に、この文明を目のカタキと考えているのだから。若者からスピード感を断てば、死しかないということが判らないのだ。

おふくろに聞くと、この住民大会は町内の八十名が集った。親父の熱心さにほだされたり、多少の義理もからんでいるだろうが、第一回目とあって関心は高かったという。新聞社とテレビ局が、またもや住民パワーだとい

うニュース記事を紹介した。

ボクは一カ月ほどして、ようやく話し相手とめぐりあった。予備校生は、いわばライバル同志。うわつらだけの交際はあっても互いに心を割っての話し合いはない。ましてブレイについて一緒にエンジョイすることはない。まだその相手の名前を知らない。ニキビ面だからニキビと呼んでもよいが。そのうちニックネームをつけよう。この間、帰りが一緒だったので喫茶店に入った。ニキビは二浪だという。余り勉強熱心でないところが共通している。ボクよりひとつ上には見えない。物に動じるところがない。鈍感なのか、のんびり屋なのか。なんでも大人びたところがシャクだが、根は善良そう。しょっちゅう指の爪をかむ。鼻くそをほじる。その指であのニキビをつぶす。可哀相にもう髪が薄い。額がひろく眼鼻だちが甘い。ボクは包皮のむけたペニスを想い出す。話していても、額をみているとボク自身の裸と対面している感じ。他人の顔から、犬とか猿とか、鳥のイメージが重なるときがある。彼には申し訳ないが、どうみても亀頭くん。くすぐったい胸のうちが、唇にこみあげてくる。

「亀さんと呼んでいいかい」

彼はきょとんとして下眼つかいにボクを見あげるが、反応は鈍い。唇の端にくわえた煙草を立てたり寝かせたり、ともかく生意気だ。

昨日、ボクが遅れて後のドアからのび足で教室に入る。空いた席を探すと、その隣りが亀さんだ。そのまま午後まで過ごし、帰りが一緒になった。

「島之内いうたら、もと遊廓やろう」

亀さんが、島之内をまだそんな風に想っていることはシヨックだ。

「ひっそりした打ち水の路地。格子窓からの明るいひかり。長い一間のれん」

「そんな面影はどこ探してもないな」

亀さんはあきらめない。

「父の年代の話だと『初島』と駅名をいうのがてれくなくて、切符買うとき、いつもひとつ向うの駅名をいうていたそうや」

「嘘だと思ったら、一度こいよ」

気の早い亀さんはそのままついてくる。電車が広い河口を渡りきる。堤防わきの低い家並みを見下しながら電車はホームに停る。

「いつの間に高架になったんや」

亀さんは珍しそうに街を眺める。ちょうど北側の駅前ビル工事の現場が見下される。道路ぎわには、高い鉄板の塀をしているのだが、ホームからはその囲いのなかの舞台裏が俯瞰できる。クレーン車に高くつりあげられた掘削器が目の高さにある。専門語は知らないが、ドラム缶のなかへするすると落下する。可成り深い。湿地帯だからわけなくはさみ込んだ泥を地上のタンクに吐きだす「あれをみろよ。ペニスに似てへんか」

亀さんがスコップを抱きあわせた例の掘削器のことをいう。こけしに似ている。

「大人のおもちゃか。よう似ているな」

泥をつつみこんでタンクにぶちあけるクレーンは心なしか、ペニスをゆさぶり、ちようど滴をはじく仕種をする。スコップの部分が固くくびれ、重油でぬらぬらしているのに、亀頭の部分が磨かれてびかびかにひかっている。「掘ったり、えぐったりするには、あの形がいちばんふさわしいんやな」

西陽がまともに、ペニスをまぶしく包みこんだ。リモコン風に操れながら、ドラム缶のなかへ急直下する。ボクは工事現場から目を駅の南側へ移した。アパート群の屋根の向うに、大樹があった。おびたらしい葉が、風にゆらいている。さわやかな気分が、胸をよぎる。このことを亀さんに伝える気はない。

「高架になったら、どこの街も似たりよったりやな」

亀さんが悟ったようなことをいう。

(つつく)

talk and talk



＜神戸っ子愛読者サロン＞

★今年の民芸公演のレパートリーのなかに、拙作「十二月」の予告が出ておりますが、「十二月」は私が、はじめて本名の「祐士」で書いた作品で、そのなかにも神戸がでています。

私は小さい時から神戸によく行っておりまして、私の伯父は三宮で豊栄（花ゴザ）の輸出商をして、毎年夏休みには、父に連れられて神戸に行っておりまして、中山手の小寺の傍らに母の妹が住んでおりましたので、慶応に行くようになってからも、夏休になると神戸に寄って、宝塚や大阪や須磨に遊びに行きました。

そんなわけで、今でも神戸は私の第二の故郷のような気がしているのですが、貴「神戸っ子」を読むのが楽しく、いただいた本は、全部保存しております。実に嬉しい本ですね。

今年は文学座四十年創立の年に当りまして、杉村春子のために「金木犀はまだ咲かない」という戯曲を書くことになっておりますのでよろしくお願ひいたします。ここ三、四年病気が続いたため、東大病院などに通っていますが、戯曲を書くより能のない男なので最後まで頑張りますから、よろしく。

△世田谷区 小山祐士△
☆小山先生なつかしいお手紙ありがとうございました。第二の故郷神戸を愛して頂くと本当に嬉し

い。民芸、文学座の神戸公演を楽しみにしております。△編集部△

★ほんとのすばしきとは、一目見てパッとわかるような奇抜さでもグバグバしてないと思う。しばらく考えてもないと。その意味で、神戸はまことにほんまもんやと思う。同じ関西でも学生ばい京都ややはり商人の町でちょっとかなわんなどという感じの大阪と違うてきわめて人あたりよくアカカけている。加えて氣候温暖、山菜水産、うまいもんきょうさん。きょうび女性軍の間でもてはやされとる謎がとげた。何かにつけて比較される横浜が東京の力ゲに比べては、一歩もひかず、見上げたもんやと思う。それからどうちかいうたらアメリカ的な横浜やまでもヨロロツパの神戸は何と云うてもヨーロッパ的なやなあ。そやからシャレと云や、そやけどこの町のええことはいくら僕が書いても始まらん。知らん人はず実際足をはこんでらうことや。それからあとのことは、町が人が、そして「神戸っ子」が助けてくれるはずや。そない思ひます。さいなら。

△福井市 細江康正△
☆福井にもいい店がありました。福井県鯖江市ですが、久里洋一さんの妹さんが経営している喫茶店「豆屋敷」で、シャレたカップがたくさん並んでます。△編集部△

★ご無沙汰しております。お元気でご活躍のこと存じます。「二ドル札は珍しいでしょ。これはアメリカ建国二百周年記念に発行されたものです。しかし普段お目にかからないとをみますと皆コレクションとしてキープしているのです。★Good Lucks」といわれますからプレゼントとします。

△ロスアンゼルス 新谷沢子△
☆神戸っ子の新年にふさわしいプレゼントありがとう。新婚はやは

の沢子さん、ベビーの誕生のお知らせ待ってます。△編集部△
★こうべ・コウベ・そして神戸、私の憩いのすべ。まだ中学生の時、戦後二〇年ぶりに生まれ故郷を見る母にお供して行ったのが、私と神戸との初めての出会い。あれから一〇年ちょっと、その間片時も忘れることができません、折をみては、乏しい財政の中から公園を幾度となくのぞき、メインストリートや小路の入り混った庭を散策し、六甲屏風をけとはして奥座敷の湯煙の香に一人陶醉してゐる。いつかきつこの町に住むの、だ！と思いつつ五十一年も暮れてゆきます。隣家の台所からブーンと夕餉の匂をかくように、この「神戸っ子」は東京の郊外にいても常に神戸の匂を運んでくれます。私も「神戸っ子」にしてチャイ。



幸運を呼ぶ
2ドル札がプレゼント



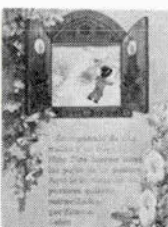
金子真珠・高野さんから

☆パール・クリエーターの高野さんがご主人とのアメリカ生活で、またどんな新しい発想の拡がりをお持ちになるか楽しみです。△編集部△

★お元気ですか、街のあちこちに大きなクリスマスツリーが飾られて、イルミネーションもいっぱい近い公園のテイルソフデ飾られて、見事です。先週の土曜日にはわざわざツリーを見物にあちこち歩きまわって、さすがにつかれました。メルカードや商店にもお祝に贈れるお菓子やチョコレート木の実、シャンペン、おもちゃがいっぱい。一月六日はこちらの子供の日、サンタクロースはいなくなり、この日に子供達はいろいろおもちゃをプレゼントしてもらおうとか。

我がもこの古いスペイン的なPISOで静かなクリスマスを通すことになりました。では又。

△マドリッドにて 宮田昭子△



しかがけが可愛いカード

☆かわいいうきりすマスカードがありがとう。不勉強なのでスペイン語で書かれたメッセージが解読出来ず残念です。△編集部△



朗らか姉妹そろって
目指すは免許獲得！

あうやま よしこ
穂山 栄子さん(右)
あきやま
穂山 知子さん(左)

「海外生活の体験から、車の運転が必要だなと思って」と知子さん「今なら時間に余裕があるから何か身につけたくて」と栄子さん。二人でドライブに出かける日ももう間近ですね。

●ライセンスローン開設！
公安委員会指定・技能試験免除

神戸自動車学院

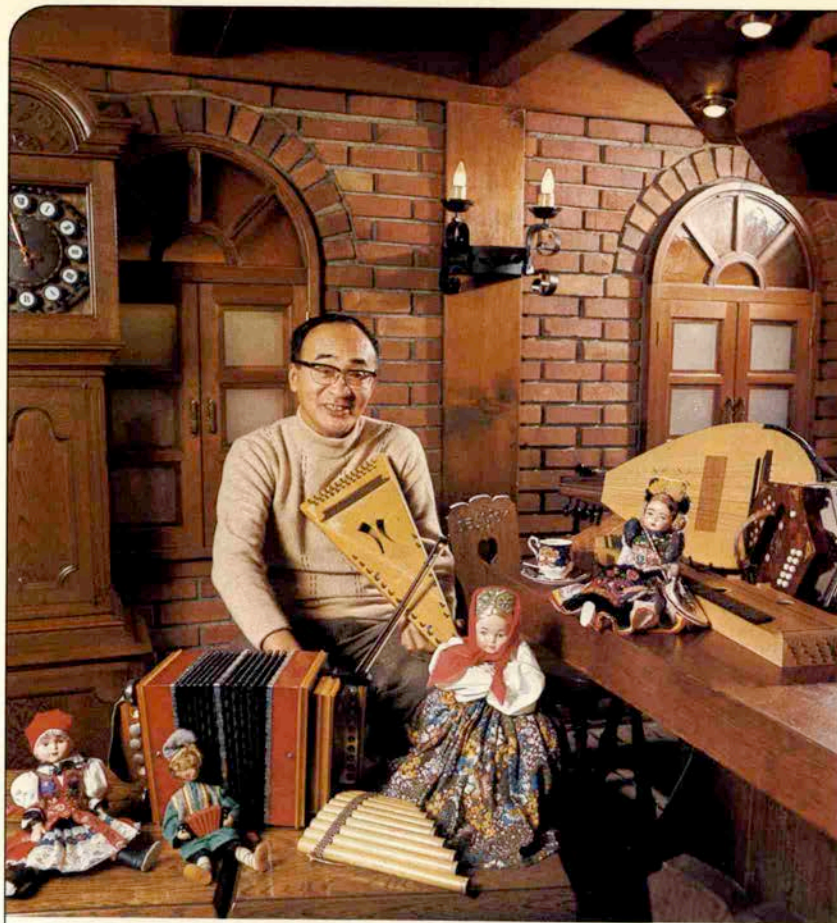
☎581-1207 (代表)

神戸市北区緑町3丁目6番1号
(神鉄山の街下車)



■スタッフ紹介/池松国男さん(指導主任)

自動車学院では勤続14年目。運転指導では16年の大ベテランで良いドライバーとは良い歩行者でもあると力説。学院内の釣愛好会、魚籠の会、では会計さんだ。



baLon antique series

<46>民族楽器

立田 雅彦さん

〈夢野台高校教諭〉

室町時代の尺八「一節切り」がお父さんの遺品。これを機に楽器の収集が始まった。韓国やヨーロッパを歩いて回り、現地で買い求めた各種の楽器——世界各国の民族楽器が自宅の部屋じゅうにいっぱい、大小あわせて二百。しかもこの趣味が教材にもなるというので一石二鳥。

「学校から帰ると必ず一度はどれかの楽器を鳴らします」と語る立田さんは根っからの「音」好きだ。

センター街店にて
カメラ／米田定蔵



ハロシ

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんブラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄

神戸のうまいもとドリンキング

★日本料理

讃岐名うどん **あこや亭**
 暮合区旗塚通7-5 ☎ 231-6300
 トアロード店 ☎ 391-2538
 兵庫駅前店 ☎ 575-5306

北海道郷土料理 **蝦夷**
 生田区中山手通1-115東門筋東門会館ビル1階
 ☎ 331-7770

和食 **くれなゐ**
 三宮生田新道浜側中央KCBビル2F
 ☎ 331-0494

鍋もの・おむすび **味の西**
 生田区北長狭通1-20 ☎ 331-3848
 三宮さんちカタウン ☎ 391-5319

たこ焼 **ちばな**
 三宮センター街(旧柳筋) ☎ 331-0572

とうふ料理 **東家**
 生田区北野町3-53 ☎ 221-1148

お茶漬・おむすび **ふる里**
 鍋もの ☎ 331-5535
 生田区北長狭通2-1

かっぱう **吉本**
 生田区加納町3-95-1(ニュー・ジャパン別館前)
 ☎ 241-3450

★西洋料理

レストラン **アポロン**
 ティー・バーラー 暮合区八幡通5-6 ☎ 251-3231

レストラン **鹿鹿鹿 皮〈あらかわ〉**
 生田区中山手2-9 ☎ 221-8547・231-3315

ピザ&スバゲティ **ガルの店**
 暮合区琴緒町5-1-7 西山ビル1F ☎ 241-9025

鉄板グリル **きんどん**
 生田区北長狭通2-22 ☎ 331-1183

ステーキハウス **グレル青山**
 生田区中山手通2-112-2(トアロード)
 ☎ 391-4858

ステーキ&ドリンキング **黒牛**
 生田区中山手通2-39-36 ☎ 241-3739

ステーキ&ドリンクス **神戸館**
 生田区下山手通2-29-3 アマツビル1F
 ☎ 321-2955

スカンディナヴィア料理 **ゴックスタッド**
 と世界の民族音楽の店 生田区山本通3-18 回教寺院前 ☎ 242-0131

GALLERY & STEAK HOUSE **SAN-MON三門**
 生田区中山手通2丁目98-99 ☎ 331-5817

Cafe et Restaurant **アンドゥトワ**
 レストラン 生田神社西 伊藤ビル1F ☎ 391-8639
 スイス・シャレ 生田区北野町3-48 アニルドマンション1F
 ☎ 221-4343

レストラン **セントジョージ**
 生田区北野町1-130 ☎ 242-1234

レストラン **男爵**
 生田区中山手1-18 山手第一ビル1F ☎ 241-0778

メキシコ小料理亭 **ティファナ**
 生田区中山手通1丁目4-12 パールコーポラスビル1F
 ☎ 242-0043

maison de la mode **花屋敷**
 ビザ・パブ 三宮フラワーロード市役所前 ☎ 251-0315

レストラン **ビザ・パテオ**
 生田区元町通1-49(元町1番街) ☎ 331-9378

フランス料理 **ビストロドゥリオン**
 生田区山本通2-40-1 ☎ 221-2727

ピッツアハウス **ピノッキオ**
 生田区中山手通2-101 ☎ 331-3545

ナイスレストラン **火の鳥**
 生田区中山手通1-27 ☎ 242-1330

ポリネシア料理 **フィッシャー・マンズポート**
 海・焼 神戸港第4突堤ポートターミナル ☎ 331-0301

レストラン **フック東店**
 生田区栄町1-5-3 ☎ 331-3207

レストラン **ムーンライト**
 三宮・生田新道 ☎ 331-9554

グリル・鉄板焼 **月**
 ☎ 331-2505

レストラン **元町フルーツホール**
 フランス料理 元町1番街 ☎ 331-1987

ステーキハウス **れんが亭**
 生田区下山手通2-34 ☎ 331-7168

BARBECUE & STEAK **六段**
 生田区元町通3 ☎ 331-2108

居酒屋 **ロス・ヒターノス**
 フラメンコショー 生田区下山手通3丁目22 下山手セントラルハイブ
 ☎ 391-5431

レストラン **フック神戸店**
 生田区栄町2-24 ☎ 321-3453

炭焼ステーキ **凱旋門**
 生田区下山手通2丁目6 新道ビル1F
 ☎ 321-3378

シムラ・料理
 アパイスレストラン

ボロニア風
 生パスタの店

★喫茶

ティー&スナック **エポック**
 喫茶 **ガーデニア**

宮水のコーヒー

コーヒースポット **メディタレーニアン**

珈琲 **モーツアルト**

ファッショナブル **キングスコート**

ティーラウンジ **ペントハウス**

珈琲 **ん**

★club

c l u b **飛鳥**

c l u b **小万**

c l u b **さち**

ク ラ ブ **千**

c l u b **なぎさ**

く ら ぶ **ーげん**

c l u b **BAR**

B A R **Moon Light**

ぶ は ら
 生田区中山手通1丁目19 ☎ 241-7047

カ プ リ オ
 神田三宮さん Plaza B 1 F
 ☎ 391-5206

津
 生田区栄町通2-14 加地ビル3F
 阪神元町駅西口南 ☎ 391-5700

エ ポ ッ ク
 生田区元町通3(浜側) ☎ 331-3694

ガーデニア
 生田区東町113-1 大神ビル1F
 ☎ 321-5114

にしむら 珈琲店
 中山手店・生田区中山手通1-70
 ☎ 221-1872・231-9524
 センター街店・生田区三宮町2-35
 ☎ 391-0669

北野店・山本通2-9 ☎ 242-2467
 (会員制) 3F事務所 ☎ 242-1880

生田区北長狭通3(トアロード)アーバンビルB1
 ☎ 331-2050

生田区山本通2-98 グランドマンション1F
 ☎ 241-3961

生田区三宮町2丁目25(トアロード)
 ☎ 391-1589

生田区中山手通1-117 ☎ 331-7627

生田区東門筋中島ビル3F
 ☎ 391-0638・4386

生田区中山手通2-75 ☎ 331-7120

生田区下山手通2-21 ☎ 391-1077

生田区北長狭通2-1 ☎ 331-8626
 三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
 ☎ 331-8593

ク ラ ブ る ふ ら ん
 生田区北長狭通1-53 ☎ 331-2854

★STAND & SNACK

PUB & RESTAURANT **アップランド**
 生田区加納町3-1-34 ☎ 241-8271

サ ロ シ **アルバトロス**
 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザ2F ☎ 231-3300

DRINKING IS AN ART OF LIFE **ウッドハウス**
 生田区下山手通1-32 ☎ 241-7320

C A F E WHISKY **音楽の家・ETエトワト**
 生田区三宮町3 三宮センター街西入口
 スカイトープビル3F ☎ 332-1755

純会員制 **エドワーズ倶楽部**
 生田区北長狭通1-28
 ホワイトローズビル5・6F 生田新道
 ☎ 391-3300

S N A C K **8 M**
 生田区北長狭通1-25 生田新道ビルB1
 ☎ 321-3070

ナイトイン **おしゃれ貴族**
 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザB1 ☎ 242-1925

スナック **蘭の花**
 生田区中山手通2丁目30-1
 東門ダイワナイトプラザ5F ☎ 391-4455

スタンド **かてな**
 生田区中山手通1-90 英健ビル1F
 ☎ 331-1316

本店洋酒の店 **キャンティ**
 生田区北長狭通2-3
 ☎ 391-3060・391-3010

北店スूपとパンの店
 生田区下山手通3-8-9
 ☎ 331-3661

スタンド **グラムール**
 生田区山本通2-60 パールライフB1
 ☎ 242-1977

スタンド **くる実**
 生田区中山手通1-72 ☎ 331-6985

サ ロ シ **神戸時代**
 生田区中山手通1-28
 モンシャウトウコトビル ☎ 242-3567

カクテルラウンジ **サヴオイ**
 高梁山側 テキの店北 ☎ 331-2615

スナック **聚利**
 生田区下山手通2-8-6 ☎ 321-0260

スナック **山莊**
 生田区北長狭通1-22 ☎ 391-5823

music spot

サントノール

トアロード店 生田区下山手通2 トア・コード
 ☎ 391-3822

北野店 生田区中山手通1-24-7
 ダイワナイトプラザ6F ☎ 221-3886

スナック **レオバルド**
 生田区中山手通2 丁目30-1
 東門ダイワナイトプラザ6F ☎ 391-0992

DRINK SNACK **スネカジリッ子**
 生田区下山手通2 永見ビルB1
 ☎ 391-8708

Wine and something **珍地理屋**
 生田区中山手通1-24-7
 大和ナイトプラザ1F ☎ 242-0288

素舌洞 **でっさん**
 生田区北長狭通1-258 ☎ 331-6778

スナック **ビジービー**
 生田区中山手2 ☎ 391-4582

スナック&ドリンク **姫**
 生田区中山手通1-18 ☎ 221-1950

ドリンク & レストラン **ベルビュ・ドール**
 生田区中山手通2-101 大洋ビル2F
 ☎ 321-5677

居酒屋 **ボルドー**
 生田新道浜側中央KCBビルB1
 ☎ 331-3575

S T A N D **マシュケナダ**
 生田区中山手通2-30-1 東門大和ナイトプラザ2F
 ☎ 331-5587

スナック **美和**
 生田区下山手通1 ☎ 391-3050

スナック **興志務楽亭**
 生田区山本通2-60 パールライフB1
 ☎ 242-1977

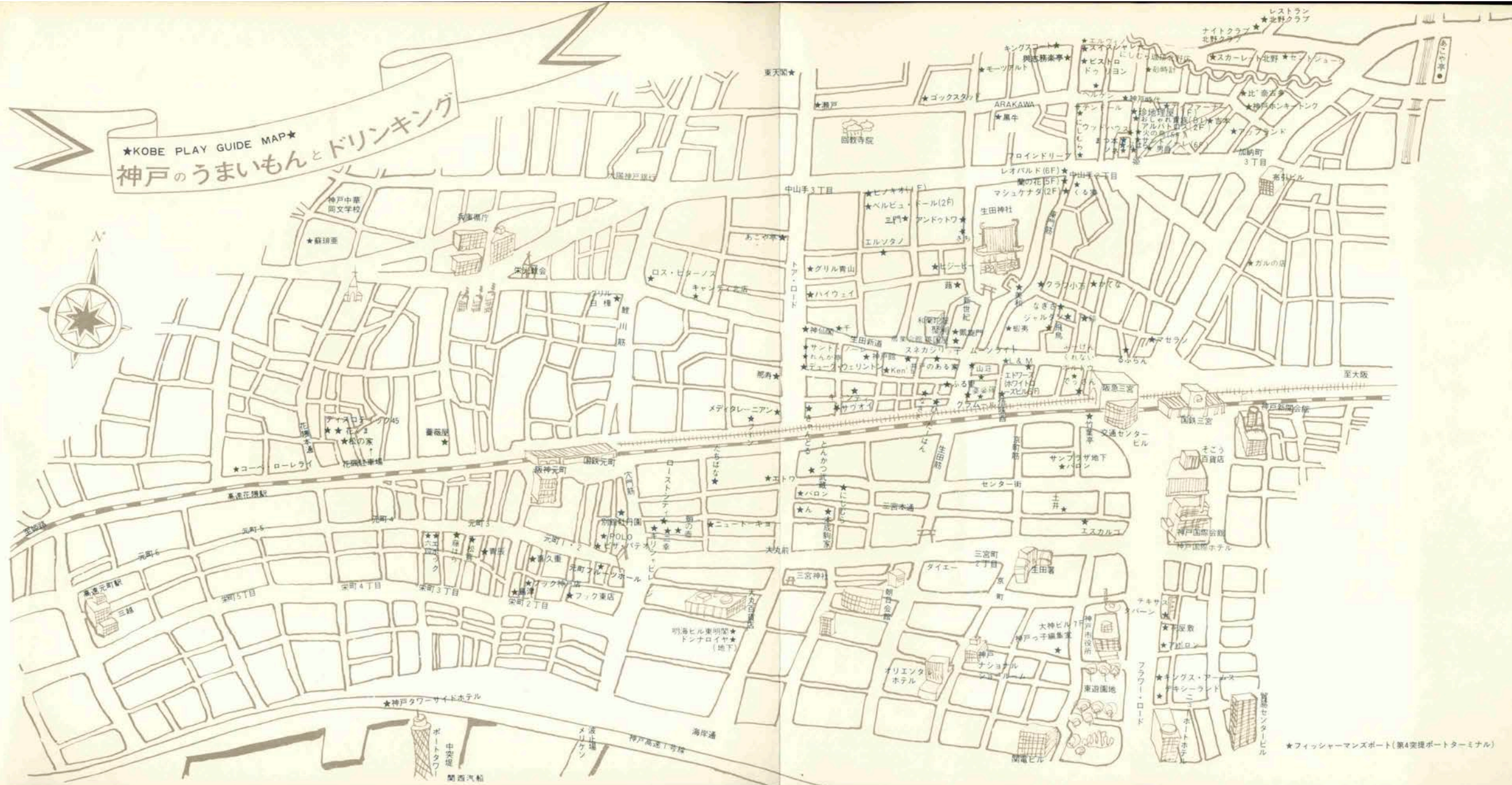
ティー&カクテルラウンジ **ルカカルトン**
 生田区北野町3-2-67 ☎ 241-4323

ウエスタンパブ **神戸ホンキートンク**
 生田区加納町2-30
 ☎ 241-2161

バーラー **サンデリカ**
 生田区中山手通1-90
 ☎ 392-1434-6

ア リ ル **Ken's ケンズ**
 生田区下山手通2-29 ☎ 391-3212

神戸のうまいもん



★フィッシャーマンズボート(第4突堤ボートターミナル)



スナック

JEAN PATOU 生田区北長狭通2丁目5-1
 ジャン バトウ
 ☎ 392-1625

小鉢ものは手づくりの味。若い人が多く、ボックス席もあるのでグループでも楽しめる。ロバートブラウン/キープ 6,000 水割 500
 キリンビール(小) 400 6:00PM~1:00AM 第1・3日曜休み



アメリカン

生田区元町通2丁目8-1
 ☎ 321-2854

体格のいいマスターはフットボールの選手。いつも陽気な仲間の集まる安く楽しく飲める店。ロバートブラウン/キープ 4,000 水割 250
 キリンビール(中) 300 9:00AM~11:00PM 日曜休み

Night in February



COFFEE・GRILL・WINE・JAZZ

ダッドマツ

生田区北長狭通2丁目8
 トアロード秀栄ビルB1
 ☎ 392-1253

大阪ロイヤルホテルで腕をみがいたコックの料理。銘機から流れるジャズ。奥にはボックス席もある。ロバートブラウン/キープ 6,000 水割 500
 キリンビール(小) 500 11:30AM~2:00AM 年中無休



御食事処

志摩

灘区楠ヶ丘4丁目5-6
 阪急六甲浜側東500米
 ☎ 821-5519

ステーキや野菜いためなど好みに応じて各種の鉄板焼きが味わえる。若い人が多く活気ある店。ロバートブラウン/キープ 5,000 水割 400
 キリンビール(小) 300 6:00PM~3:00AM 第1・3日曜休み

華やいだ雰囲気の中であたたかな心が通い合ういつもの店。



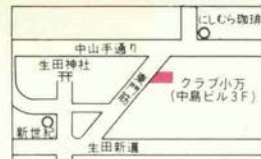
CLUB

小万

岩本 起代子

神戸市生田区中山手通1丁目114-1(東門筋)中島ビル3F

☎ 391-0638・4386





美女ありて 今宵も旨き 灘の酒
呑むほどに…酔うほどに…話はずみ興に乗る
そんな酒徒の憩いの場 今日もにつこり微笑むママがいる



ク ラ ブ

鈴

山田昌子

神戸市生田区中山手通1丁目111-1

ローズブラザビル 1F

TEL (078) 331-2403

● Sweet comic Valentine, You make me smile with my heart



の時、若い人たちの熱気にあふれ、ジャズが流れる神
らしい粋な雰囲気——サテンドールの夜と酒。

ジャズ ライヴ

SATIN DOLL

生田区中山手通 1 ☎ 242-0100



かげさまで開店二年目のステップを踏み始めました。
り一層のご愛顧の程お願い申し上げます。北村かほる

ステーキ&ドリンクス

神戸館

生田新道農業会館向い アマツビル1F ☎ 321-2955



静かな山の手にボタンと看板が……。扉のむこうはあな
たをとりこにするメキシコの世界。

連日生演奏：ロスティファーナ

メキシコ料理の店

TIJUANA

生田区中山手通 1 ☎ 242-0043



好評ボトルサービス リザーブ 3,900円。おつまみ 600
円均一。豪華で良心的なお店「ルカ・カルトン」へどうぞ。

お酒・お食事

Lucas Carton

生田区北野町 3 ☎ 241-4323～4

NIGHT IN KOBE

●ヴァレンティン—あなたと私だけの神戸の夜



ヴァレンティンの愛の告白——あなたのロマンチックな夜はジャズとスコッチのレオパルドから始まります。

LEOPARD

生田区中山手通2 東門ダイワナイトプラザ6F

☎ 391-0992・2125



「私たちの食べてるお肉はあれじゃない? 炭焼きステーキってグーね」「うん、美味い! 値段も安心だしね」

ビフテキの 凱旋門

三宮農業会館東駐車場北 ☎ 321-3378



お酒を飲みながらのお食事。そうしてご自慢のノドを披——とあなたも阿羅仁でのひとときをお楽しみ下さい。

スナック
阿羅仁 あらじん

生田区中山手通1 ☎ 391-0865



白い壁と緑のじゅうたんが豪華なムードで、若い女性が気軽に楽しめる「ホワイトハウス」がオープンしました。

WHITE HOUSE

生田区中山手通1 ☎ 331-1111



PUB & RESTAURANT

UPLANDS

生田区加納町3丁目
1-34
☎241-8271



RESTAURANT

SWISS CHALET

生田区北野町3丁目48
アニルドマンション1F
☎221-4343

KOBE DRINKING GUIDE

FENDI

生田区北長狭通2-5-1
良友ビル地階
☎391-3628



DRINKING IS AN ART OF LIFE

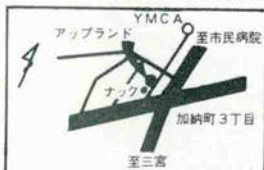
WOODHOUSE

生田区中山手通1丁目32
山内ビル
☎241-7320・7983



☆一日が暮れようとしている。仲間欲しさにいつもの店へ足を向ける。駅前広場を通ると数人の男女が何やら相談をしている。「オレはいい気持ちで酔える店がいいね」「女性でも安心して行ける雰囲気のあるお店にしましょうよ」「それに酒だけでなくイカス音楽のあるところだと面白い」「私はお腹が空いているので、お料理のいいところへ行きたいわ」「僕もそうだな。酒も余り強くないし……」どうやらこれからどこで食事をするか、アレコレやと決めているらしい。と、間もなく「ここへ行くことにしよう」と意見が一致したらしい。どこへ行くのか興味をわいて来て彼らの後をついて行くと、それは私がいつも行く“アップランド”だ。なるほど、誰の考えも同じだ。今夜は彼らと楽しいひとときがもてそうだ。

☆ローストビーフ ¥2,700 ポークソーセージ ¥900 シェパーズパイ ¥1,000
ステーキ&キドニパイ ¥1,000 フィッシュ&チップス ¥750 コーニッシュ
パースティ ¥800 プロス(ウェールズ風シチュー) ¥800 J&B、G&G、
OLD 各 ¥500 ビール 各 ¥400
5:00PM~3:00AM 日曜6:00AM~3:00AM 無休



アップランド



フエンディ

☆ドアを開けるとシルバークレイの世界がそこに広がっている……。ファッション工房の松本伸雄さんの設計によって斬新なスタイルの店がオープンした。奈良の彫刻家、柴利秋さんの作品がファンタスティックな彩りを、神戸の造形作家、河口龍夫さんの版画が静かなムードを……この店に与えている。

みんなが楽しく、ママの手料理を賞味しながら、ゆっくりと落ち着いた飲める雰囲気がある。また、ドイツやブルガリアなどのワインが豊富に揃っており、この店へ来た人は大いワイン党になって帰るとか。特にヘレスターキ、サラダ、ワインボトルのセットがやすくておいしいと評判がいい。

☆ボトル/スコッチ ¥8,000 リザーブ ¥8,000
6:00PM~0:00AM

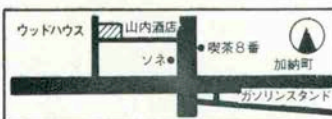
☆エキゾチックな北野の高台にあるいかにも神戸らしいオシャレなセンスの可愛いお店。ふと足をとめたくなる、そんな店がまえ。スイス人の経営による本場スイスの家庭料理には手づくりのあたたかさが感じられます。こころよい音楽が流れ、素敵な食事のあとのひとときはハッピーな気分です。この季節にはチーズフォンデュ、ビーフフォンデュといったお料理はいかがでしょう。直輸入のスイスビールの他、スイスのワインも豊富に品揃えをしています。おいしい肉料理と豊潤な味と香りのワインの組み合わせはきっとお気に召すでしょう。他にも仔牛料理、魚料理などメニューも豊富でお値段もお手頃です。

0:00P.M.~10:00P.M. 月曜定休

スイスシャレー



ウッドハウス



☆その男は寒そうにトレンチコートの襟を立てて、さっきからそこに立っていた。鋭い眼つき。足下にはすでに幾つかのタバコの吸い殻が落ちている。男は胸ポケットから億劫そうに新たに一本を取り出す。カチッ。ライターの炎が男の顔を赤く照らし出す。一瞬、ニヒルな笑いが冷酷そうな薄い唇に浮かぶ。フーッ。白い煙が夜の闇に吸い込まれる。と、そのとき、一つの足音が男に近づく。男の眼に青白い閃光が走る。女だ！黒いコートに身を包んだ若い女の影が男に近づく。男は火をつけたばかりのタバコを舗道に棄て、そして、女に……。『ネエ、ボク、ものすごく待ったんだよ』『あら、そう。お気の毒。ふたりの姿はいつものように“ウッドハウス”の扉の中へ消えたのだった。』

☆ビール(小) ¥400 水割(OLD) ¥500 おつまみ ¥200 スパゲティ・ピ
ラフ 各 ¥500 キープ G & G ¥6,000 レギュラー スコッチ ¥7,000
平日5:00PM~4:30AM 日曜5:00PM~0:00AM 第1・第3月曜休